

研究背景

高齢者が健康で充実した生活を送るために、高齢者の聴覚特性の研究を行う。

聴覚特性

- **利き耳**は年齢とともに右側または、**左側**に移行する。
- 時代間による利き耳の研究があまりない。

音像定位能力

- 高齢者は**立ち上がり部分 (Rise time)**の認識が不十分である。
- 音声認識に対する**右耳優位性 (REA)**が明らかになっている。

研究目的

利き耳アンケート調査

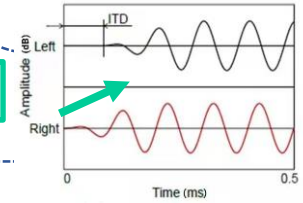
+

音像定位実験

↓

高齢者の聴覚特性の左右差の有無を把握する。

- **年齢層と時代間**に着目する。
- 年齢を含めて**Rise time**に着目する。



研究内容

対象	利き耳		音像定位に及ぼす利き耳の寄与度	音像定位		
	解析	検討		実験	解析	検討
<ul style="list-style-type: none"> • 若年者 • 中年者 • 高齢者 	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ時代間+異なる年齢層 • 異なる時代間+同じ年齢層 • 異なる時代間+異なる年齢層 <p>三つ角度から解析する</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 年齢層と時代間による利き耳の変化傾向及び左右の差の把握 	<p>音像定位に関して利き耳が関連あるかどうかを検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 質問紙と観察法によって、各利きを調査する。 • 異なる両耳間時間差 (ITD)と異なるRise timeを与えた音源を左右耳に聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自信度と回答の関係 • 数量化理論とニューラルネットワークにより、影響因子の検定 • 被験者がRise timeを認知できたか左右耳について比較 	<ul style="list-style-type: none"> • 利き耳が音像定位との関係があるかを確認す • Rise timeが長くなると左右認識の把握 • 左右耳の差を明確してREAがあるかを確認する